

## 平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒等に役立てることやこれらの取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成 28 年 4 月 19 日（火）

### ■ 調査の対象学年

小学校 6 年生

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A, 算数A]	主として「活用」に関する問題 [国語B, 算数B]
<ul style="list-style-type: none"><li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備や状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

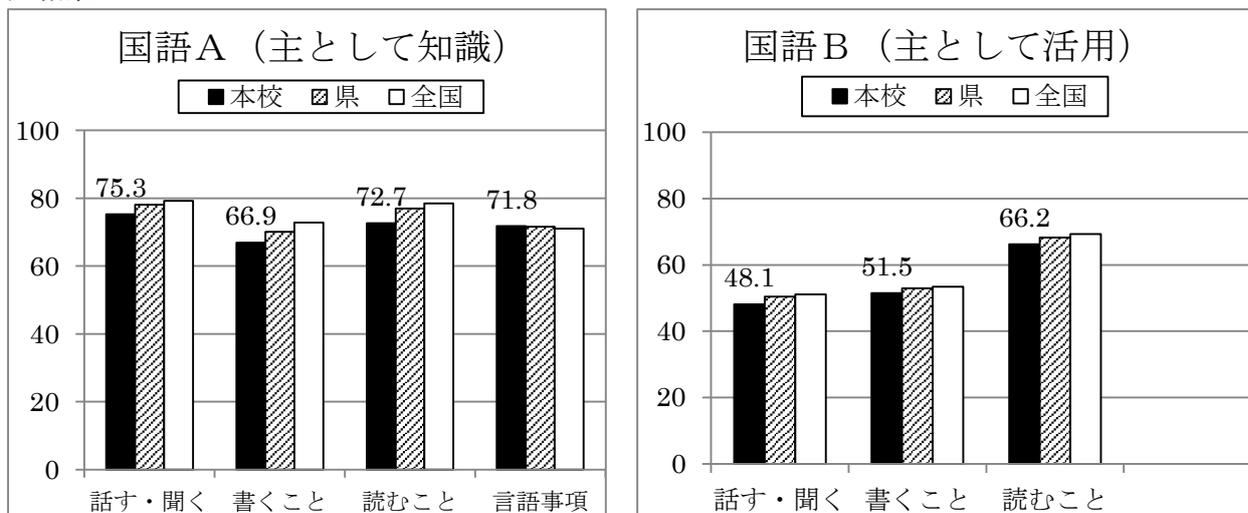
### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果



#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・インタビューの工夫や意図について、4つの選択肢から選ぶ問題（2問）はおおむねできていました。しかし、話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って質問を考える問題において、3つの条件を満たして記述できている子どもが少なかったです。

##### 書く

・委員会を紹介するパンフレットを作るために追加の取材をした理由として適切なものを選択したり（国語A）、「早寝早起き」活動の課題に対する解決方法について提示された表の結果を基に書いたり（国語B）する問題の正答率が低かったです。いずれも、目的や意図に応じて書く事柄を整理し、与えられた条件を満たしながら書く力を付けていく必要があると考えています。

##### 読む

・複数の資料を関連付けたり、共通点や差異点を比べたりしながら読むことに課題があります。限られた時間内に、多くの情報（文章や絵・図・表など）の中から、必要な情報を整理して見つけ読み取っていく力を付ける必要があります。

##### 言語事項

・漢字の読み書きは、全国の平均に対しておおむね上回っていました。しかし、ローマ字では、特に「hyaku」を正しく読むことができていませんでした。拗音や撥音、促音など特別な読み方をするローマ字表記になれる必要があります。パソコンのローマ字入力などを通して、教科にとらわれずローマ字に触れる機会を設けます。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

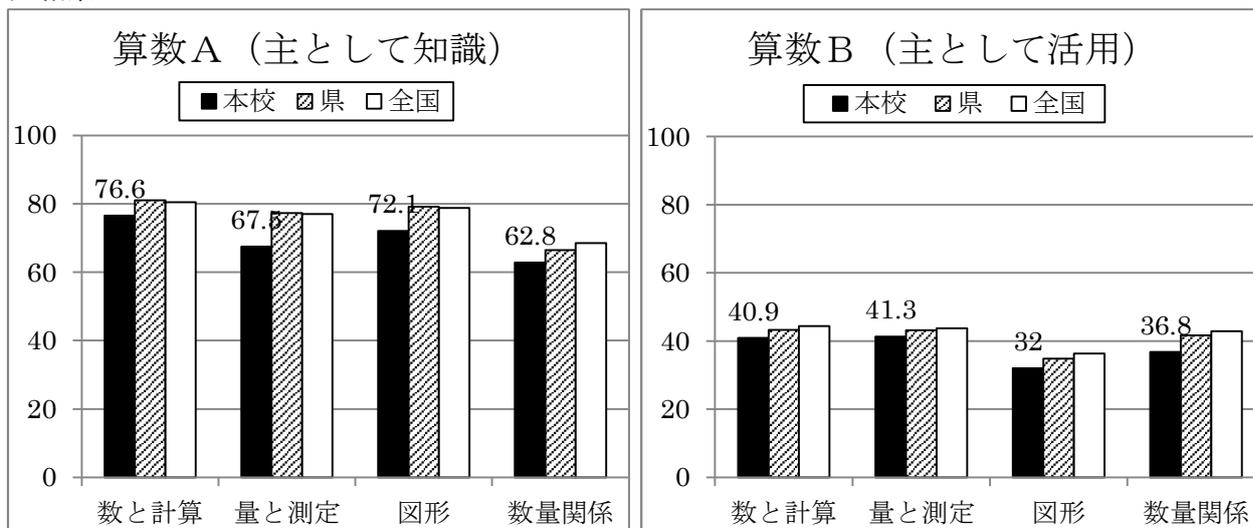
昨年度に引き続き、本に親しむ習慣（朝の読書）を身に付けさせるとともに、語彙を広げ文字に親しむ朝の活動（パワーアップタイム）の取り組みを継続させます。また、教育活動全体を通して、立場や目的、意図を明確にした言語活動を充実させていきます。さらに、問題の条件を読み取ることができるよう、普段のテスト等でも指導を行っていきます。

##### 【ご家庭では】

親子で、読書に親しんだり、生活での出来事や新聞記事（ニュース）について話題にしたりするなど、正しい言葉の使い方や多くの語彙に触れることが大切です。休日に、市立図書館や県立図書館に足を運ばれるのもいいですね。また、「音読」の宿題では、文のまとまりを意識してすらすらと読んでいるか、しっかり聞いていただけると助かります。

## 2 算数

### (1) 結果



### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・足し算、引き算、掛け算についてはおおむねできていました。しかし、小数の割り算に課題が見られました。例えば、 $2.1 \div 0.7$  の商と  $21 \div 7$  の商が等しいことを生かして計算することや、 $18 \div 0.9$  を正しく計算することです。機械的に計算するのではなく、十進位取り記数法（十進法）の意味や、四則計算の性質について理解・定着できるよう、今後とも低学年からの積み上げを大事にしていきます。

#### 量と測定

・算数Aの単位量当たりの大きさの求め方（ $8 \text{ m}^2$ に14人が座っているシートについて、 $1 \text{ m}^2$ 当たりの人数を求める式）や、三角形の底辺と高さの関係についての正答率が低かったです。

#### 図形

・算数B（正方形に内接する円の半径についての理解）においては、おおむね良好な結果を得ました。算数Aでは、同じ4枚の三角定規で作ることができる図形を選ぶ問題の正答率が低かったです。低学年より具体的操作を通して図形感覚を養うと共に、問題を解く際には適切に補助線をかき足すなどの思考を助ける術を身に付けさせます。

#### 数量関係

・算数Bにおいては、おおむね全国平均を上回っていました。算数Aでは、自分の前に10人、後ろに19人並んでいる場合の全体の人数を求める式と答えを書く問題の正答率が低かったです。示された場面や条件を適切に読み取り、立式をする力を付けていきます。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

今後も、基礎的な計算力を育み、学びの定着を図る取り組み（パワーアップタイムや習熟タイム）を充実させます。また、算数の授業では、題意をとらえる場面や互いの考えを練り合う場面を大切に、言語活動の充実を図ることで基礎・基本の定着を図っています。さらに、少人数・TT指導も単元や児童の実態に合わせ効果的に取り入れ、子どもたちの学力向上を目指します。

#### 【ご家庭では】

生活場面でも算数を話題にしてみたり、子どもたちの考えの根拠を尋ねたりしていただくなど、算数の日常化を図り有用感を感じさせていただけると幸いです。学校で学習したことを家庭で復習することで、学力が身に付いていきます。宿題（計算ドリルやプリント類）やテストなどには必ず目を通していただくと、つまづきを早めに見つけられます。子どもたちはさらに自信と安心感をもって、自分の力を発揮できるよう、励ましの言葉掛けをお願いします。

### 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

#### (1) 結果

##### 《生活習慣について》

(%)

調査項目	本校 (昨年度)	本校 (今年度)	全国 (今年度)
朝食を毎日食べている	91.9	93.5	95.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	74.4	84.5	80.1
毎日、同じくらいの時刻に起きている	93.0	89.6	90.8
平日2時間以上テレビを見る	68.6	57.2	57.1
平日1時間以上ゲームをする(パソコン・携帯型・スマホ型も含む)	46.5	41.5	54.9
平日読書を30分以上している。	37.2	52.0	36.5
平日読書は全くしない～10分未満。	37.2	22.1	36.5
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする。	74.4	80.5	79.2
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしない。	3.5	1.3	4.5

ご家庭の協力もあり、基本的な生活リズムはおおむね身に付いているようです。しかし、朝食について全国平均より低い傾向にあります。朝食には、低下していた体温を上昇させ、身体を目覚めさせたり脳の働きを活性化させたりする働きがあることが分かっています。これからも「早寝・早起き・朝ご飯」を合い言葉に、規則正しい生活ができるよう、ご家庭のご協力をよろしく願います。

##### 《家庭学習の様子》

(%)

調査項目	本校 (昨年度)	本校 (今年度)	全国 (今年度)
学校の授業時間以外に、平日2時間以上勉強している	23.2	22.1	25.5
学校の授業時間以外に、平日1～2時間勉強している	29.1	33.8	37.0
学校の授業時間以外に、平日0～1時間勉強している	47.7	44.2	37.3
家で、学校の授業の復習をしている	52.3	53.3	55.2
家で、自分で計画を立てて勉強をしている	59.3	65.0	62.2
新聞をほぼ毎日読んでいる	10.5	9.1	8.9
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	76.8	86.3	86.4

家庭学習に関して、学習時間が、全国平均の値を下回っているのが分かります。家庭学習が習慣化している子どもたちと、そうでない子どもたちに、2分化(2極化)される傾向にあると考えます。全体への指導と共に、個別の働き掛けをしていく必要があると考えています。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

宿題や復習の時間が多いと学力が付きます。自学(自主学習)については、中・高学年を中心に取り組みを充実させていきます。その際、表彰をしたり、放送で紹介したりしながら、学校全体に自学の取り組みを広げていきます。また、朝の読書も継続して取り組みます。朝の時間もメディアセンターを利用できるようにするなど、環境も整えていきます。

##### 【ご家庭では】

日頃より、子どもたちの生活習慣に目を向けてくださっていることに感謝申し上げます。今後も、「早寝・早起き・朝ご飯」のサイクルを整えていただけるようお願いいたします。家庭学習につきましては計画的に継続的に取り組む中で、量や質の向上を目指していくことも大切です。子どもたちの取り組みを見守っていただくとともに、「褒め」と「励まし」の言葉掛けを意識していただけると嬉しいです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

